

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3670101611		
法人名	医療法人 青志会		
事業所名	ハートインライフ住吉		
所在地	徳島県徳島市住吉2丁目9番8号		
自己評価作成日	令和2年10月6日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 徳島県社会福祉協議会		
所在地	徳島県徳島市中昭和町1丁目2番地 県立総合福祉センター3階		
訪問調査日	令和2年10月21日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

建物は木造で広々とした落ち着いた雰囲気の良い環境です。『手と手のぬくもりあふれる笑顔』の理念のもと、一人ひとりを尊重したケアの実践に努めています。また、日常生活のなかで笑顔の絶えない生活空間を作れるようにしています。ご利用者様が意志疎通が困難になったり、寝たきりになっていく中でもいつまでもグループホームでの生活ができるよう職員の技術向上にも努めています。医療・介護・ご家族様との連携を図り、最期までより添える看取りの支援にも取り組んでいます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、母体が医療法人となっており、医療や看護との連携体制を整え、重度化や看取りの支援についても利用者や家族等の意向にそった支援に努めている。SNSを活用し、職員が代表者や管理者に、日ごろの支援や勤務、運営に関する事まで、気軽に意見を伝えることができるよう工夫している。職員の意見が反映されやすいことが、サービスの質や職員の働く意欲の向上につながっている。入浴については、利用者の希望に応じて、毎日でも入浴することができるよう支援している。利用者の状態にあわせて、清拭や部分浴を行い、清潔保持に努めている。職員は、介護技術の向上や、きめ細やかな意向の把握に努めつつ、感染症(コロナ等)の流行下においても、運営推進会議の開催や外出支援について全職員で検討を重ね取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き生きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			ユニット1 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人の理念とは別に、「手と手のぬくもり溢れる笑顔」を掲げている。フロアの見やすい位置に掲示し、管理者、職員は常に念頭に置き、挨拶、笑顔を忘れずに日々の業務に携わっている。	事業所は、開所時からの理念を大切にしている。理念は、事業所内に掲示したり、毎月の勉強会で確認しながら、共有化を図り、実践につなげている。職員は、利用者との日ごろのかかわりのなかから、理念について具体的に検討し、意識統一を図っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	近隣住人の方への挨拶を忘れないようにしている。新年の挨拶や、暑中伺いを行っている。保育園との交流ができており、町内の自治会長さんは運営推進会議に参加して頂き、ご意見を頂いている。	事業所では、地域の祭りに利用者とともに参加している。隣の保育園と交流したり、ボランティアを受け入れたりしている。感染症(コロナ等)の流行に伴い、地域との交流は控えているが、収束後には引き続き積極的に取り組む予定である。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	見学者をいつでも受け入れ、グループホームをより理解して頂けるように説明させていただいている。また、運営推進会議を通して、日常生活の様子をお伝えしたり、認知症の理解や支援の方法をお伝えしている。しかし、今年は新型コロナウイルスの関係上、建物外での説明やお電話でのご説明をしています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	委員の皆様よりご意見を頂き改善に向けてのアドバイスを頂いたり、ご家族のお話しをお聞きできて、今後の取り組みの力となっている。	2か月に1回、運営推進会議を開催している。会議には、利用者や家族、自治会長、地域包括支援センター職員等の出席を得ている。会議では、事業所の報告や意見交換を行っている。会議で得た情報から、行事への参加やボランティアの受け入れにつなげるなど、サービスの質の向上に活かしている。感染症の流行に伴い、書面での会議を行い、意見を得ている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	管理者が毎月徳島市役所を訪問し、適時指導や情報提供、報告を行っている。また、地域包括支援センターとの連携などがあり、協働関係の構築に努めている。	管理者は、毎月、市の担当窓口で事業所の報告や相談を行っている。感染症の流行に伴い、現在は郵送で報告しているが、わからないことがあれば電話で相談するなど、協力関係を築いている。感染症の対応について相談する機会も増えていて、連携を密にしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護保険指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束が及ぼす影響や人権について職員研修を実施し、周知している。また、日常的にケアについて考え、職員間でミーティングを行っている。身体拘束適正化委員会にて定期的に現状について検討できている。やむを得ずしなければならない事案があったが結果的には行わなかった。	事業所では、身体拘束に関する研修や身体拘束廃止委員会で、身体拘束をしないケアについて、日々の振り返りを行っている。やむを得ず身体拘束が必要となった場合も、家族等の同意を得つつ、職員間で見守りでの対応を検討している。	今後も、研修や身体拘束廃止委員会で、身体拘束の内容とその弊害について職員の間でさらに深め、拘束にあたる行為等について話し合いを継続されたい。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止についてコンプライアンスルールを掲示している。管理者が率先し見回りをを行い、職員が常に意識し、言葉使いや対応について配慮できるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			ユニット1 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	詰所にパンフレットを置き、いつでも相談・支援できるようにしている。また、地域包括支援センター、県社協等の行う研修に参加できるように努めているが、新型コロナウイルス流行してからは、参加できていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書等については、ご家族様に十分ご説明し納得して頂けるよう管理者が対応している。また、改訂の際にも書面での説明し、同意を得るようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族が来設時にはお話しをお聞きするようにし、日頃の様子についてご報告している。また、玄関にご意見箱を設置しており、ご要望をお聞きできるよう努めている。遠方のご家族にはお電話やお手紙にてご連絡する事を心がけ、ご意見を伺えるよう努めている。	職員は、利用者との日ごろのかかわりのなかで、意見をきいている。家族等の意見については、意見箱を設置したり、来訪時や電話連絡の際にきいたりしている。感染症の流行に伴い、事業所だよりとともに担当職員から手紙を送付し、家族等に利用者の日ごろの状況を詳細に伝えることで、意見を引き出す工夫をしている。家族からの面会への要望を反映し、対策を講じつつ、窓越しや屋外で話ができるようにしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は毎日の申し送りの中で職員が意見や要望が提案できるように努めている。また、個別に意見を聞く時間をつくり、考えや提案がないか働きかけている。スマートフォンを活用し意見を出し合うことができた。運営者と管理者は頻回に連絡をとり、情報の共有をしている。	管理者は、日ごろの支援のなかで職員の意見や提案をきいている。SNSを活用し、日ごろの取り組みなどについて、代表者と直接話す機会もある。出された意見は検討し、運営面に反映している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は職員に対し感謝や激励の言葉を常にかけ、職員を認め、やりがいや向上心をもてるようにしている。また、心身の変化にも相談に応じ、勤務時間や休日、夜勤回数、有休休暇の取得等にも応じている。(働き方改革実施している)		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	認知症実践者研修、介護職員による痰吸引研修、虐待についての研修、スキルアップや情報交換の機会をつくるよう進めている。事業所内でも計画的に勉強会を行っており、様々な内容(認知症や介護技術など)について勉強会を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内の他部門との職員相互に交流、研修の機会を設けている。同業者との交流の機会がなく、ネットワーク作りに努めている。現在は新型コロナウイルス流行に伴い、実践されていない為、電話やネットを通じて取り組みを検討している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			ユニット1 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人が職員に対し安心感をもって頂けるように心がけ、ご本人だけでなく、ご家族からも聴き取りを行い、希望や要望を実現できるように努めている。また、関係機関や利用サービス事業所との連携をはかり、情報を得る事でご本人の状況を把握できるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	契約時、面会時、等にお話しができるよう声をかける事に努めている。お電話でも相談する場合があります。ご家族の要望に耳を傾け、対応するように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	初回の相談時に状況を把握したうえで、対応している。満床で対応できない場合は他のサービスの相談を行う場合もある。また、認知症ケアにおける対応等についてアドバイスできるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者ひとり一人の方と向き合い、意向や思いに寄り添えるように努め、残された残存機能が発揮できるように日常生活支援している。常に感謝の言葉を表し、共に行動し支え合うように努めている。食事や洗濯の場面、貼り絵等の作業を共に行っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者の日常生活について喜ばしい事、困った事等を常にお知らせできるように努め、共に相談しながら一緒に支援していただけるように心がけている。遠方のご家族には電話やお手紙でのやり取りも行っている。新型コロナウイルス流行に伴い、すべてのご家族様へまごころ通信をお送りし、近況報告を行った。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	知人や友人が来設の際にはゆっくりお話しをしていただくようにしている。また、お墓詣りや外出の支援、かかりつけ医への受診の援助、併設のデイサービスとの交流、等を行っている。今年は、新型コロナウイルス流行に伴い、制限があり、できていないことが多い。	事業所には、利用者の友人や知人の来訪があり、ゆっくり話ができるよう配慮している。利用者の同窓会への参加を支援したこともある。感染症の流行に伴い、現在は条件付きで自宅やお墓参り等の外出のみとなっているが、年賀状の支援等も行い、馴染みの関係継続に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずにご利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日常生活を通して馴染みの関係がつけられるように配慮している。食事の席の配置や、外出時、レクリエーション時の関わり合い等、職員が間に入り働きかけや支援を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			ユニット1 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院、退去された方には、その後の経過をお聞きしたり、お電話やお手紙を差し上げたりしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	常に利用者の立場にたって、希望や要望をお聞きするように努めている。また、判断に困る場合にはご家族に相談したり、最善の方法を検討している。	職員は、日ごろの利用者とのかわりのなかで、思いや意向の把握に努めている。意思の表出が困難な利用者については、表情や仕草から本人本意に検討したり、家族等にきいたりしている。職員間で共有しつつ、利用者がしたいことを大切に支援に取り組んでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	主治医、ケアマネ、他のサービス関係者との連携を図り、情報を共有できるように働きかけている。ご本人やご家族にも入居時のみならず、随時生活歴をお聞きし把握するように努めている。お聞きした情報は記録し職員皆が共有できるようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員は一人一人の生活習慣について把握し、その日の状況の見極め、心身状態の変化について気付きをもてるように対応している。気付いたことは職員全員が周知できるように報告や介護記録に残すようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画は一人の職員が考えるのではなく、利用者、ご家族、主治医、等の意見を考慮し職員全体で意見を出し合い作成している。	事業所では、利用者や家族等、医師、看護師等の意見をきき、介護計画を作成している。毎月、チェック評価と文章評価でモニタリングを行い、計画を見直している。また、利用者の心身状況の変化に応じた見直しもを行い、現状に即した介護計画となっている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアの実践を毎日記録し、心身の状況を個別に記録している。日々情報交換、共有に努め、毎月のモニタリングにより変化がないか見直し、介護計画に結びつけている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者の心身の状況に応じ、かかりつけ医を受診したり、往診していただいたりしている。また、職員による散髪も喜ばれている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			ユニット1 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ご家族との繋がりを大切にするとともに、これまで行ってきた生活習慣が継続できるように努めている。(お墓参りや食事等)		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者やご家族の意向を踏まえ、かかりつけ医への受診を継続している。医師は月2回の往診を行い、面談や電話等でご家族へ連絡を行いながら、適切な医療がうけられるようにしている。	事業所では、利用者や家族等が希望するかかりつけ医の受診を支援している。受診支援は、専門医も含めて、原則職員が行うが、家族等の協力を得ることもある。月2回の往診もあり、家族等や医療機関と連携し、適切な医療の受診を支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員に相談しながら、日々のケアや健康管理に努めている。状態変化について相談できるよう努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には同行し、身体状況の報告や服薬状況の連絡、荷物の運搬を支援している。入院中は定期的に訪問し、様子をお聞きしている。また、退院に向けて医療機関との連携を図り、早期に受け入れ体制を整えるように努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に書面にて意向をお聞きするようにしているが、随時状況に応じて利用者、ご家族、主治医との話し合いの場を持ち、方針を検討している。方針は職員全体が周知情報がわかるように記録に残すようにしている。	入居時の段階で、重度化や終末期における事業所の方針について、利用者や家族等に説明し、話しあっている。2か月に1回、看取りに関する研修を開催している。利用者の心身状況の変化に応じて、話し合いを繰り返し、利用者や家族が安心して終末期を迎えることができるよう取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	医師や看護師により、救急対応についての指導をうけたり、個別に予測できる事態については医師やご家族と話し合いを持つようにしている。職員研修にも盛り込んで実践し、対応できるよう努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の防火訓練を定期的に行っており、消防署職員より指導や助言を頂いている。また、非常災害マニュアルを見直し、具体的に進められるよう努めている。隣の保育園と協力体制に努めている。災害時用の水や栄養飲料の備蓄もしている。	年2回、火災や水害を想定した避難訓練を実施している。避難場所まで歩いて行ってみたり、事業所内で階段の昇降訓練をしたりして、実践的に取り組んでいる。近隣住民にも訓練への参加を呼びかけ、地域の協力が得られるよう努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			ユニット1 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉かけには常に注意している。入浴へのお誘いや排泄の見守り時等、自尊心を傷つけない対応を心がけ、記録の際にも敬う気持ちを持って記載している。	職員は、トイレ誘導の際は、さりげない声かけを心掛けている。日ごろの支援のなかで、気になる場面があれば、管理者が話し合いの機会を設けたり、職員同士で注意しあったりして、利用者の誇りやプライバシーを損ねることのないよう努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	能力に合わせた言葉かけや説明を行い、納得した上で行動できるように支援している。強制する事なく、待つ事も大切にしよう働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日々のレクリエーションにおいても、強制はせず、個々の生活ペースを重視している。食事時間の配慮や気分転換の散歩や外出にも留意している。新型コロナウイルス流行に伴い、散歩は敷地内での散歩を行っている。外出は控えている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	希望や要望に沿って、買い物に同行したり、代行したり、お化粧を手伝ったり、散髪をさせて頂いたり、対応している。その日の衣服を一緒に考えたりして希望に添えるようにしている。新型コロナウイルス流行に伴い、買い物同行は行っていない。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	日々の準備や肩付け、簡単な調理を一緒に行っている。週1回の夕食作りでは、献立を皆で考え、栄養バランス、季節感を考慮したメニューづくりに努めている。買い物、調理にも協力して頂いている。	事業所は、木曜日を夕食づくりの日とし、畑で育てたゴーヤやサツマイモを利用しつつ、調理している。おやつレクの日を設けて、利用者とともに季節に応じたおやつづくりを行うなど、食事を楽しむことができるよう取り組んでいる。刻み食やミキサー食等、利用者一人ひとりに合わせて、形態を変えながら、食事を支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分量は毎回記録し、体重測定を月1回は実施している。食事がすすまない時には捕食の提供も行っている。また、食事の形態もきざみやミキサー食等その方によって食べやすい工夫に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の歯磨き、口腔ケアを実施している。義歯の洗浄にも留意している。歯ブラシ、スポンジ等を使用し定期的に交換している。必要時には歯科往診も依頼して義歯調整等をお願いしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			ユニット1 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	尿意の訴えが困難な方でも定期的にトイレに座って頂けるように支援している。気持ちよく排泄し、清潔保持できるように留意している。トイレの場所が一目で分かるように大きく表示している。	事業所では、利用者一人ひとりの状況にあわせてトイレ誘導し、排泄を支援している。夜間についても、状況に応じてポータブルトイレを利用するなど、トイレで気持ちよく排泄することができるよう取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	十分な水分摂取や牛乳の摂取をすすめたり、体操、腹部マッサージ等を行っている。排便状況を記録し、便秘がちな時には医師に相談している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	毎日入浴できるようにしている。個々のペースやタイミングに合わせてお誘いするようにしている。身体的状況に合わせて清拭や部分浴も実施したりしている。	事業所では、少なくとも週2、3回の入浴ができるように支援している。入浴の時間は定めず、希望に応じて毎日でも入浴を支援している。入浴を拒む利用者には、声かけを工夫するなどしている。季節に応じて、ゆず湯や入浴剤を用いて、入浴を楽しむことができるよう工夫している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	消灯時間は設けているが、それぞれの時間を尊重している。眠れない時には声をかけたり、飲み物をお出ししたりして見守っている。昼間でも、休息をとって頂いたり体調にあわせて過ごして頂いている。冬場は、湯たんぽを使用等で安眠に努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方された内服薬等の内容を把握し、正しく服薬できるように支援している。内服薬はその都度服薬確認し、誤薬がないように注意している。体調の変化に応じて医師に報告し確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	それぞれの居場所ができるように、役割を持って頂くように支援している。洗濯ものをたたむ、干す、掃除をする、調理をする、食器を拭く、等出来ることを積極的に継続してできるようにしている。新型コロナウイルス流行に伴い、外出はできていない。気分転換に音楽をかけたりにしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	四季を通して、お花見、阿波踊り見物、散歩、初詣に出かけている。勝浦のビッグひな祭りの見物にも出かけた。家人とお墓参りにでかけたり、食事に出かけた際には身支度や準備、車イスの貸出しを行いスムーズにでかけられるように支援している。今年は新型コロナウイルス流行に伴い、おでかけはできていない。	事業所では、季節に応じた外出や買い物等に出かけている。家族の協力を得て、条件つきで墓参り等に出かけることもある。感染症の流行に伴い、外出は控えているが、事業所の敷地内に出て、気分転換を図る等、外に出る機会を設けている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			ユニット1 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族との話し合いにより、小額ご自身で所持して頂く場合がある。外出の際にはご自身で支払ができるように支援している。お金を持つことが出来ない方にも欲しいものが購入できるようにご家族と相談している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	詰所の電話を使用して頂いている。また、手紙を書くことができるように声かけを行っている。新型コロナウイルス流行に伴い、面会も制限があり、なかなか会うことが出来ないでお電話でご家族様とお話して頂き、とても喜ばれた場面があった。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感を感じられるようなカレンダーや飾り付けを行い、貼り絵等の色彩のある作品を掲示し明るい雰囲気作りにも努めている。テレビの音量や温度調節、採光にも配慮している。	共用空間は、窓から日光がさし込み、明るく、清潔感がある。利用者と職員と一緒に作成した貼り絵等を飾りつけ、温かみのある空間となっている。家具の配置を工夫した広々とした空間で、車いすの利用者も通りやすいよう、安全面に配慮している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者様がそれぞれに落ち着いて過ごせるように、座る場所や周辺環境を整え、机やいすの配置を工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	出来る限り、使い慣れた物を持って来て頂くようにしている。好みや生活に合わせて、居室内の配置も相談している。また、状況により、模様替えをしたり、環境整備に努めている。	居室には、利用者の馴染みの家具や調度品、家族の写真等を持ち込んでもらっている。家族等とも相談しながら、利用者一人ひとりが居心地よく過ごすことのできる居室づくりに取り組んでいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	段差のない構造であり、手すり設置により階段や廊下も歩きやすくなっている。心身の状況に合わせてベッドや家具の移動をしたり、灯りを置いたり、トイレの表示をしたり、安全で自立した生活が送れるように努めている。		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			ユニット2 実践状況	実践状況	実践状況
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人の理念とは別に、「手と手のぬくもり溢れる笑顔」を掲げている。フロアの見やすい位置に掲示し、管理者、職員は常に念頭に置き、挨拶 +D74+D6:E25+D74+D6:E25+D74+D6:E25		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	近隣住人の方への挨拶を忘れないようにしている。新年の挨拶や、暑中伺いを行っている。保育園との交流ができており、町内の自治会長さんは運営推進会議に参加して頂き、ご意見を頂いている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	見学者をいつでも受け入れ、グループホームをより理解して頂けるように説明させていただいている。また、運営推進会議を通して、日常生活の様子をお伝えしたり、認知症の理解や支援の方法をお伝えしている。新型コロナウイルス流行に伴い、館外でのご説明やお電話での説明を行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	委員の皆様よりご意見を頂き改善に向けてのアドバイスを頂いたり、ご家族のお話しをお聞きできて、今後の取り組みの力となっている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	管理者が毎月、徳島市役所を訪問し、適時指導や情報提供、報告を行っている。また、地域包括支援センターとの連携などがあり協働関係の構築に努めている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束が及ぼす影響や人権について職員研修を実施し、周知している。また、日常的にケアについて考え、職員間でミーティングを行っている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止についてコンプライアンスルールを掲示している。管理者が率先して見回りを行い、職員が常に意識し、言葉使いや対応について配慮できるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			ユニット2 実践状況	実践状況	実践状況
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	詰所にパンフレットを置き、いつでも相談・支援できるようにしている。また、地域包括支援センター、県社協等の行う研修に参加できるように努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書等については、ご家族に十分ご説明し納得して頂けるように管理者が対応している。また、改定の際にも書面で説明し同意を得るようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族が来設時にはお話しをお聞きするようにし、日頃の様子についてご報告している。また、玄関にご意見箱を設置しており、ご要望をお聞きできるよう努めている。遠方のご家族にはお電話やお手紙にてご連絡する事を心がけ、ご意見を伺えるよう努めている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は毎日の申し送りの中で職員が意見や要望が提案できるように努めている。また、個別に意見を聞く時間をつくり、考えや提案がないか働きかけている。スマートフォンを活用し意見を出し合う事ができた。運営者と管理者は頻回に連絡をとり、情報の共有をしている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は職員に対し感謝や激励の言葉を常にかけて、職員を認め、やりがいや向上心をもてるようにしている。また、心身の変化にも相談に応じ、勤務時間や休日、夜勤回数、有休休暇の取得等にも応じている。(働き方改革)		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	認知症実践者研修、介護職員による痰吸引研修、虐待についての研修、スキルアップや情報交換の機会をつくるよう進めている。事業所内でも計画的に勉強会を行っており、様々な内容(認知症や介護技術など)について勉強会を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内の他部門との職員相互に交流、研修の機会を設けている。同業者との交流の機会がなく、ネットワーク作りに努めている。現在は新型コロナウイルス流行に伴い、実践されていない為、電話やネットを通じて取り組みを検討している。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			ユニット2 実践状況	実践状況	実践状況
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人が職員に対し安心感をもって頂けるように心がけ、ご本人だけでなく、ご家族からも聴き取りを行い、希望や要望を実現できるように努めている。また、関係機関や利用サービス事業所との連携をはかり、情報を得る事でご本人の状況を把握できるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	契約時、面会時、等にお話しができるよう声をかける事に努めている。お電話でも相談する場合があります、ご家族の要望に耳を傾け、対応するように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	初回の相談時に状況を把握したうえで、対応している。満床で対応できない場合は他のサービスの相談を行う場合もある。また、認知症ケアにおける対応等についてアドバイスできるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者ひとり一人の方と向き合い、意向や思いに寄り添えるように努め、残された残存機能が発揮できるように日常生活支援している。常に感謝の言葉を表し、共に行動し支え合うように努めている。食事や洗濯の場面、貼り絵等の作業を共にしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者の日常生活について喜ばしい事、困った事等を常にお知らせできるように努め、共に相談しながら一緒に支援していただけるように心がけている。遠方のご家族には電話やお手紙でのやり取りも行っている。新型コロナウイルス流行に伴い、すべてのご家族様へまごころ通信をお送りし、近況報告を行った。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	知人や友人が来設の際にはゆっくりお話しをしていただくようにしている。また、お墓詣りや外出の支援、かかりつけ医への受診の援助、併設のデイサービスとの交流、等を行っている。今年は、新型コロナウイルス流行に伴い、制限があり、できていないことが多い。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日常生活を通して馴染みの関係がつかられるように配慮している。食事の席の配置や、外出時、レクリエーション時の関わり合い等、職員が間に入り働きかけや支援を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			ユニット2 実践状況	実践状況	実践状況
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院、退去された方には、その後の経過をお聞きしたり、お電話やお手紙を差し上げたりしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	常に利用者の立場にたって、希望や要望をお聞きしている。また、判断に困る場合にはご家族に相談したり、最善の方法を検討している。生活空間には馴染みの家具やご家族の写真、好きなものを身近に置き過ごして頂いている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	主治医、ケアマネ、他のサービス関係者との連携を図り、情報を共有できるように働きかけている。ご本人やご家族にも入居時のみならず、随時生活歴をお聞きし把握するように努めている。お聞きした情報は記録し職員皆が共有できるようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員は一人一人の生活習慣について把握し、その日の状況の見極め、心身状態の変化について気付きをもてるように対応している。気付いたことは職員全員が周知できるように報告や介護記録に残すようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画は一人の職員が考えるのではなく、利用者、ご家族、主治医、等の意見を考慮し職員全体で意見を出し合い作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアの実践を毎日記録し、心身の状況を個別に記録している。日々情報交換、共有に努め、毎月のモニタリングにより変化がないか見直し、介護計画に結びつけている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者の心身の状況に応じ、かかりつけ医を受診したり、往診していただいたりしている。また、職員による散髪も喜ばれている。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			ユニット2 実践状況	実践状況	実践状況
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ご家族との繋がりを大切にするとともに、これまで行ってきた生活習慣が継続できるように努めている。(お墓参りや食事等)同窓会への参加も行った。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者やご家族の意向を踏まえ、かかりつけ医への受診を継続している。医師は月2回の往診を行い、面談や電話等でご家族へ連絡を行いながら、適切な医療がうけられるようにしている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員に相談しながら、日々のケアや健康管理に努めている。状態変化について相談できるよう努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には同行し、身体状況の報告や服薬状況の連絡、荷物の運搬を支援している。入院中は定期的に訪問し、様子をお聞きしている。また、退院に向けて医療機関との連携を図り、早期に受け入れ体制を整えるように努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に書面にて意向をお聞きするようにしているが、随時状況に応じて利用者、ご家族、主治医との話し合いの場を持ち、方針を検討している。方針は職員全体が周知情報がわかるように記録に残すようにしている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	医師や看護師により、救急対応についての指導をうけたり、個別に予測できる事態については医師やご家族と話し合いを持つようにしている。職員研修にも盛り込んで実践し、対応できるよう努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の防火訓練を定期的に行っており、消防署職員より指導や助言を頂いている。また、非常災害マニュアルを見直し、具体的に進められるよう努めている。隣の保育園と協力体制に努めている。災害時用の水や栄養飲料の備蓄も行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			ユニット2 実践状況	実践状況	実践状況
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉かけには常に注意している。入浴へのお誘いや排泄の見守り時等、自尊心を傷つけない対応を心がけ、記録の際にも敬う気持ちを持って記載している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	能力に合わせた言葉かけや説明を行い、納得した上で行動できるように支援している。強制する事なく、待つ事も大切にしよう働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日々のレクリエーションにおいても、強制はせず、個々の生活ペースを重視している。食事時間の配慮や気分転換の散歩や外出にも留意している。新型コロナウイルス流行に伴い、散歩は敷地内での散歩を行っている。外出は控えている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	希望や要望に沿って、買い物に同行したり、代行したり、お化粧を手伝ったり、散髪をさせて頂いたり、対応している。その日の衣服を一緒に考えたりして希望に添えるようにしている。新型コロナウイルス流行に伴い、買い物同行は行っていない。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	日々の準備や肩付け、簡単な調理を一緒に行っている。週1回の夕食作りでは、献立を皆で考え、栄養バランス、季節感を考慮したメニューづくりに努めている。買い物、調理にも協力して頂いている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分量は毎回記録し、体重測定を月1回は実施している。食事がすすまない時には捕食の提供も行っている。また、食事の形態もきざみやミキサー食等その方によって食べやすい工夫に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の歯磨き、口腔ケアを実施している。義歯の洗浄にも留意している。歯ブラシ、スポンジ等を使用し定期的に交換している。歯科往診や歯科衛生士の訪問により口腔ケアの助言や指導も受けている。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			ユニット2 実践状況	実践状況	実践状況
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	尿意の訴えが困難な方でも定期的にトイレに座って頂けるように支援している。気持ちよく排泄し、清潔保持できるように留意している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	十分な水分摂取や牛乳の摂取をすすめたり、体操、腹部マッサージ等を行っている。排便状況を記録し、便秘がちな時には医師に相談している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	毎日入浴できるようにしている。個々のペースやタイミングに合わせてお誘いするようにしている。身体的状況に合わせて清拭や部分浴も実施したりしている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	消灯時間は設けているが、それぞれの時間を尊重している。眠れない時には声をかけたり、飲み物をお出ししたりして見守っている。昼間でも、休息をとって頂いたり体調にあわせて過ごして頂いている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方された内服薬等の内容を把握し、正しく服薬できるように支援している。内服薬はその都度服薬確認し、誤薬がないように注意している。体調の変化に応じて医師に報告し確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	それぞれの居場所ができるように、役割を持って頂くように支援している。洗濯ものをたたむ、干す、掃除をする、調理をする、食器を拭く、お米の精米等出来ることを積極的に継続してできるようにしている。新型コロナウイルス流行に伴い、外出はできていない。気分転換に音楽をかけたりにしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	四季を通して、お花見、阿波踊り見物、散歩、初詣に出かけている。勝浦のビッグひな祭りの見物にも出かけた。家人とお墓参りにでかけたり、食事に出かけた際には身支度や準備、車イスの貸出しを行いスムーズにでかけられるように支援している。今年は新型コロナウイルス流行に伴い、おでかけはできていない。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			ユニット2 実践状況	実践状況	実践状況
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族との話し合いにより、小額ご自身で所持して頂く場合がある。外出の際にはご自身で支払ができるように支援している。お金を持つことが出来ない方にも欲しいものが購入できるようにご家族と相談している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	詰所の電話を使用して頂いている。また、手紙を書くことができるように声かけを行っている。新型コロナウイルス流行に伴い、面会も制限があり、なかなか会うことが出来ないのお電話でご家族様とお話して頂き、とても喜ばれた場面があった。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感を感じられるようなカレンダーや飾り付けを行い、貼り絵等の色彩のある作品を掲示し明るい雰囲気作りに努めている。テレビの音量や温度調節、採光にも配慮している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者様がそれぞれに落ち着いて過ごせるように、座る場所や周辺環境を整え、机やいすの配置を工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	出来る限り、使い慣れた物を持って来て頂くようにしている。好みや生活に合わせて、居室内の配置も相談している。また、状況により、模様替えをしたり、環境整備に努めている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	段差のない構造であり、手すり設置により階段や廊下も歩きやすくなっている。心身の状況に合わせてベッドや家具の移動をしたり、灯りを置いたり、トイレの表示をしたり、安全で自立した生活が送れるように努めている。		